

磨製石斧（^{ませい} ^{せきふ} ^{ふかな} 深名遺跡【富浦地区・深名】出土）

磨製石斧は、磨いて仕上げられており、木を切る斧として使われていたようです。

この石斧は折損がなく、完全な形です。最大長12.6cm、最大幅4.8cm、最大厚2.8cmで重量は322.6gです。断面はやや楕円形になっています。石器石材の専門家によれば使用されている石材は、日本海側で産出される^{りょくしよくがん}緑色岩です。

この石斧を採集した深名遺跡は、出土する土器から東京湾を挟んだ三浦半島を含めた南関東西部との文化交流がうかがえます。

日本海側の石材が、どのようにして房総半島まで運ばれてきたのか。石材のまま運ばれてきたのか、製作後に運ばれてきたのか。想像してみてください。

